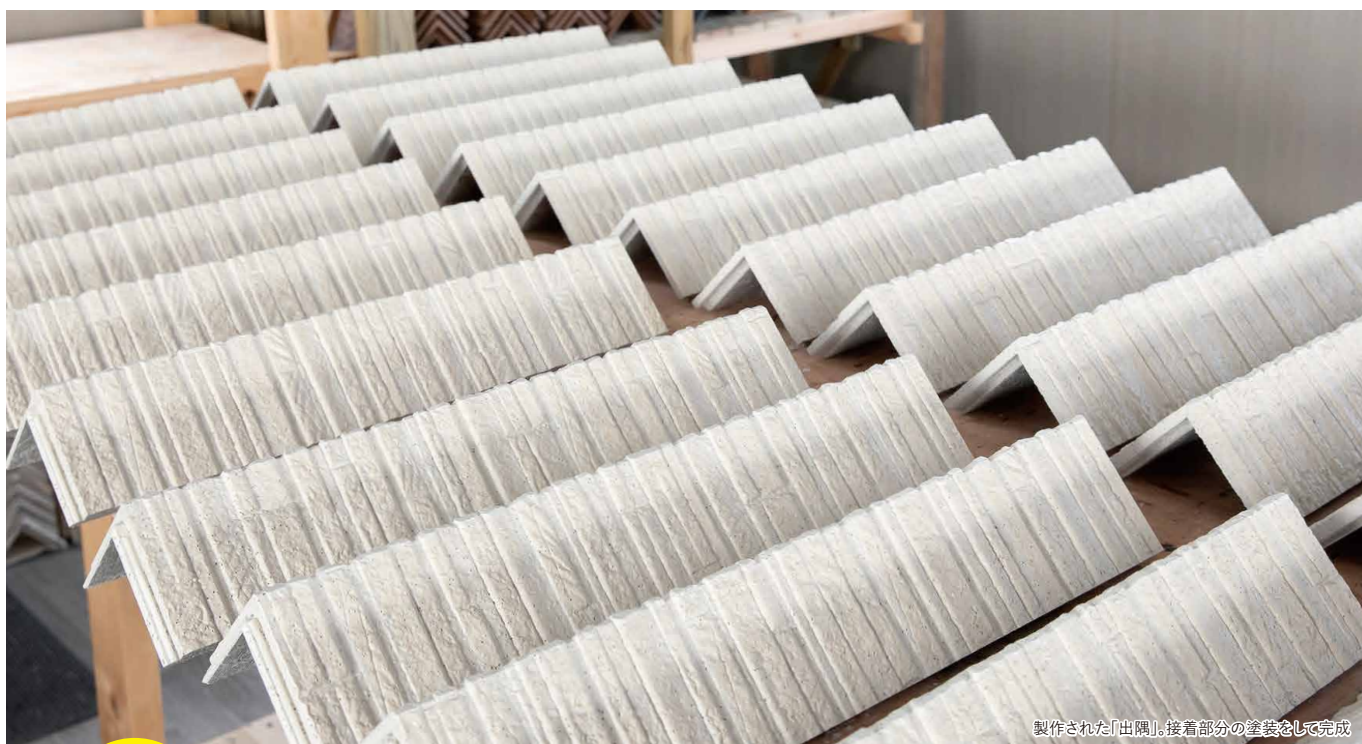


現場を知り尽くした職人集団ならではの 建築資材の販売を



製作された「出隅」。接着部分の塗装をして完成

事業 概要

平成30年度
補正

ベテラン職人の建築技術を活かし、繋ぐ、 出隅加工の内製化の実現

商社から購入していた加工製品「出隅」を、出隅加工機を導入して自社で加工。現場で出るサイディングの端材を活かすことで廃棄費用を減らし、同業他社からの注文に応じた製品をより短納期・低価格で販売。さらなる新製品の開発を目指す。

仙台に本社を移転 建築資材の内製化で新たな販路を

2019年に島根県から宮城県仙台市に本社を移転した。きっかけは東日本大震災後の2012年1月、復興へ向けてようやく木造住宅の建設が始まり、その応援を頼まれたことだった。「長くご依頼いただいている仕事、会社が増え、子どもたちもこちらで育っているの、社員とその家族全員で移住したような感じです」と代表取締役の寺本聖也さん。株式会社サンワークはサイディングを使った木造住宅の外壁工事・屋根や雨どいなどの外装工事を行っている。その建築資材に「出隅」と呼ばれる角の部分

がある。これまで商社から購入していたものを、ものづくり補助金で「出隅加工機5点セット」を購入し、内製化を図った。



巾決めカット機と集塵装置(後方)

現場で出る端材を活用し 納期・価格とも満足出来る製品に

出隅は住宅の水漏れや破損を防止し、永く建物を維持するためにも重要な資材だ。これまでは商社のカタログ製品に現場を合わせていたが、内製化したことで現場に合ったものを加工出来るようになった。また現場で使用しているサイディングの端材を使って加工出来るので、サイディングの廃棄物を減らすこともできる。「もちろん自分たちでも使いますが、東北で出隅を作っている会社は少ないので、販売もしています。商社に発注すると納品まで時間がかかっていたものが短納期で済みますし、現場から持ち込まれた端材を加工してお渡ししています。今のところ口コミですが使っていただいたところには、100%再注文いただいています」。



加工の肝になる高周波接着機。強度を出せる数値が入力されている



搬入された端材を必要な幅にカットする

職人の技術を数値化し、 より良い仕事とお客様の満足度向上を目指す

加工機導入後、試験を繰り返して満足出来る強度が出せるようになった。接着の状態は季節によって変わるが、導入して約1年、高周波接着機に接着時間や圧力などの数値を記憶させ、安定した製品加工が出来ている。コロナ禍で住宅着工が減少しているが、技術力と短納期を活かしたオーダーメイドな出隅加工・販売に力を入れていく。2019年の全国サイディング事業協同組合連合会の立ち上げにも携わった。サイディングをもっと周知し、より良い仕事に繋がっていきたいと考えている。



株式会社サンワーク
代表取締役 寺本 聖也 氏

会社の強みは何ですか？



ほぼ全社員に職人としての現場経験があり、現場を動かせる力があります。そこで気をつけなければならないことがわかっているのが、同業他社から製品を発注いただいても、欲しいものをすぐ理解して加工出来ることです。

被災地の復興に携わられた感想は？



最初の現場は石巻でした。あの時に復興に向かう凄い熱量のなかで一緒に携われたこと、自分の技術で役に立てる、喜んでいただけたことがありがたいと感じ、私自身がそこで成長させていただきました。